授業科目名	相談援助入門	単位数	2
担当教員名	堀越　由紀子	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	医療ソーシャルワーカーとしての実践経験をふまえ、ソーシャルワークカーをはじめとする対人的な相談援助の展開過程と相談技法に焦点をあてながら解説する。		

「学位授与の方針」との関係

本科目は、ソーシャルワークをはじめとする対人的な相談援助の意義と具体的実践展開を理解し、多様な事例を考察することにより、自律的な課題探求能力の基本を身に着けていくことを目的とする。

授業の到達目標及びテーマ

（１）ソーシャルワークを念頭に、対人的な相談援助の構成要素と展開過程を理解する
（２）相談援助を実践するための価値、原理・原則、基本的な姿勢を理解する
（３）相談援助の方法とくに相談面接の技法について学ぶ

授業の概要

近年、学校現場におけるスクールソーシャルワーカーや企業におけるメンタルヘルス担当ワーカー等の配置が進んでいることからもわかるように、人々の生活の場において対人的な相談援助にあたる活動がたいへん重要になっている。とくに新型コロナ感染症の蔓延が収束しない状況下、失職や収入減少による生活苦、人間関係の希薄化や孤立、うつ病や自殺、家庭内での暴力や虐待といった問題が生じていることもあり、相談援助はますます重要になっている。

こういった相談援助は、福祉、医療、教育、産業など多様な領域において、基本的には個人や家族に対して個別的に行われるが、個別援助だけではどうにもならない場合には、組織、地域、ひいては制度や政策への働きかけというように対象の次元を考えながら活動を展開していくことになる。

とはいえ、どの次元の実践を行うにしても、人の尊厳の尊重や社会的公正といった価値基盤や倫理原則などは共通である。また、開始、展開、終結、評価といった援助プロセスも共通している。そして、第一歩は相談相手との信頼関係形成と丁寧な対話による相談面接である。そこで、この授業ではソーシャルワークを念頭に対人的な相談援助について学修する。

授業計画

第１回：現代社会における私たちの生活課題と相談援助
第２回：ソーシャルワークとはどのようなものか
第３回：ソーシャルワークの基盤・価値・原則
第４回：対人援助の作法を身につける前に
第５回：言葉を用いず信頼関係を築く作法
第６回：相手の気持ちに寄り添う作法
第７回：相手に質問するときの作法
第８回：相手に伝えるときの作法
第９回：相手のもっている力を引き出す法
第１０回：苦手を感じず相手とかかわる作法
第１１回：対応が困難に思える人への作法
第１２回：相談援助の展開過程（プロセス）①

第１３回：相談援助の展開過程（プロセス）② 第１４回：相談援助の展開過程（プロセス）③ 第１５回：授業のまとめ 定期試験
教科書 （１）竹田 伸也 編著（2019）『対人援助の作法』中央法規出版 （２）木下大生・藤田孝典 （著）（2015）『知りたい！ ソーシャルワーカーの仕事（岩波ブックレット）』岩波書店
参考文献 （１）岩崎晋也他（監修）（2022）『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック５）』ミネルヴァ書房 （２）武田健・津田耕一（2016）『ソーシャルワークとは何か：バイステックの７原則と社会福祉援助技術』誠信書房
学生に対する評価 スクーリング評価（３０％）、レポート評価（３０％）、科目修得試験（４０％）を総合して評価する。